

幕末開港から引き継がれる日米交流 黒船祭の歩み

開国の歴史を現在に伝え、毎年盛大に開催される下田の「黒船祭」は、本年で70回という節目を迎えます。今回も「幕末タイムスリップ」をテーマに、まち全体が開港当時の情緒で彩られるほか、70回を記念した様々なイベントが行なわれ、下田を大いに盛り上げてくれます。



第1回 黒船祭歓迎アーチとグルー大使夫妻 (1934年)

下田と黒船

徳川幕府による鎖国政策は、嘉永7年(1854) 神奈川において締結された日米和親条約により、下田を開港地として、その門戸を近代世界へ開きました。和親条約交渉中、すでに米艦は下田に来航し、港内の測量等を実施しており、これ以後、通商条約で横浜開港となるまでの間、開港地・下田は日本外交の中心舞台となりました。

下田「鼻黒」に上陸したペリー一行は「了仙寺」において、日米和親条約附録13か条の締結交渉をおこない、林大^{がど}学頭^のをはじめとする日本側全権団との間に調印を取り交わしました。また、安政3年(1



第7回 黒船祭の様子 (1940年)

第1回黒船祭開催

開港80周年を記念した第1回黒船祭は昭和9年、4月20日から5月3日までの2週間にかけて行われました。来賓であったグルー駐日米国大使夫妻、野村吉三郎海軍大將等は軍艦「島風」で下田港に入港し、開港先賢慰霊祭を中心に、仮装提灯行列、開港記念展覧会、連日の花火打ち上げ、黒船に饗装した遊覧船による港内・神子元石廊崎方面への航行、黒船音頭の発表等、数多くの催し物が盛大に行なわれました。

黒船祭の歩み

その後「黒船祭」は、国際的な観光行事として、下田の観光の目玉と呼べるまでに定着していきませんが、太平洋戦



第27回黒船祭 おじちゃんおひげがいいね (1966年)

黒船祭の足跡

昭和9年(1934)	第1回 黒船祭開催(開港80周年記念)
昭和16年(1941)	太平洋戦争により中断
昭和21年(1946)	
昭和22年(1947)	
昭和23年(1948)	第8回 再開
昭和28年(1953)	第14回 ベリー、ハリス開国記念碑除幕
昭和33年(1958)	第19回 空母「ホーネット」、潜水艦「キャットフィッシュ」、輸送攻撃艦「メリック」参加 ニューポート市と姉妹都市提携
昭和35年(1960)	第21回 日米修好の碑除幕(日米修好通商100年記念)
昭和37年(1962)	第23回 ニューポート市代表団初参加
昭和41年(1966)	第27回 ベリー上陸記念碑建立
昭和49年(1974)	第35回 伊豆沖地震のため中止
昭和61年(1986)	第47回 下田日米協会発足
平成元年(1989)	第50回 記念誌発行
平成6年(1995)	第55回 ベリー生誕200年
平成16年(2004)	第65回 下田開港150周年記念
平成18年(2006)	第67回 領事館開設150周年記念
平成20年(2008)	第69回 下田市・ニューポート市姉妹都市提携50周年記念

こんなイベントもありました

海軍より救援物資が届けられるなど、黒船祭で培われた日米交流が、災害支援というかたちで表されることとなりました。

70回の歴史のなかでは、様々なイベントが開催されています。記念マラソン大会、野球大会、駅伝競走、ジャズフェスティバル、ミス黒船コンテスト、櫓船競漕等、いずれも黒船祭を華やかに彩ってくれました。



第2回黒船祭櫓船競漕(原町から犬走島を一周するレースでした。)(1935年)

これまで、いろいろな歩みが続けてきた黒船祭は、今年で70回の記念を迎えます。みなさんは是非、黒船祭に参加して、幕末の風情と賑わいを感じてください。

下田市名誉市民 マンズフィールド氏

第1回のグルー駐日米国大使ご夫妻のご臨席以来、黒船祭には、歴代駐日米国大使をはじめ、日米交流に寄与する様々な来賓の皆様にご参加いただいています。なかでも、マイクJ・マンズフィールド駐日米国大使は戦後、在任期間が最も長く、黒船祭にも計9回ものご臨席を賜り、日米親善、下田市民との交流に大きな貢献をいただきました。



このように同氏の功績に対し市では、昭和63年、特別名誉市民章を贈り、数々の偉業を讃えました。

昭和54年6月カーター米国大統領が下田に来訪し、全世界に強く下田を印象づけた「下田タウンミーティング」開催に力を注いでくれた同氏は、昭和55年、地震後の開催となった第41回黒船祭でも、故郷モンタナ州から200人あまりの人たちを下田に呼び集め、地震の打撃を受けた市民を勇気づけてくれました。